

— 資 料 —

造形表現作品の野外展示と鑑賞活動

— 保育者を目指す学生の鑑賞活動実践と具体美術の野外作品展からの作用 —

辻田 美和

The outdoor exhibition and appreciation of the art and crafts expression:
Practice of appreciation activities for students aiming to become childcare workers, and
effect of outdoor exhibition Gutai Art Association-

Miwa TSUJITA

要 旨

保育者を目指す大学生の多くは作品展示の実践経験が少なく、特に野外作品展示においては未経験である。そのため、画用紙に描かれた作品を室内の壁面に整然と並べて展示するという固定されたイメージを持っている。その固定観念を刺激して発想の転換を促すことを目指して、学生にとっても身近な地元地域で開催された具体美術の野外作品展示事例と、幼稚園での野外作品展示事例を参照し、その影響に学生自身の感性を加えた野外作品展示の実践に取り組んだ。また展示活動から育まれる人と人とのコミュニケーションや繋がりなどの作用について、授業実践を通じた考察をおこなった。

キーワード：造形表現 Arts and Crafts expression

保育者を目指す学生 Student aiming to become childcare workers

野外作品展示 Outdoor work exhibition

作品鑑賞活動 Art appreciation activity

具体美術 Gutai Art Association

1. はじめに

保育者を目指す学生が受講する「造形表現研究」や「図画工作」の演習授業にて毎回受講前アンケートを実施し、高等学校で選択した芸術科目等について尋ねているが、受講学生の約7割が音楽や書道を選択し、美術選択者は2割以下に留まっている。

そのため、多くの受講生にとって、小学校での図画工作と中学校での美術授業からの学びが美術系の基礎知識や体験となっているのだが、なぜか「上手く描く、上手く作る」ことへの意識が強く、上手く描けないことへの不安を感じる学生が多いこともアンケートから伺える。描くということについて、上手に描かないといけないものとの強い思い込みや誤解があり、そ

れが出来ないことで、苦手意識を持っている。

そこで、授業にて幼稚園教育要領の領域表現について学び、「上手に描く」という文言の記載はなく、上手く描くことを目標にしていなかったことを確認すると、驚く学生が多い。また小学校学習指導要領、中学校学習指導要領を確認して、自分が「なぜ図画工作や美術の授業で、上手に描かないといけないと思いついてきたのか」を考える機会へと繋げる学生も出ている。

この学校美術における描画についての思い込みや誤解は、作品展示と鑑賞についても同様である。多様な作品展示方法の体験や鑑賞活動の体験を持つ学生は少なく、一様で単調な事例しか認識していない現状がある。一様な事例しか知らないことから、作品展示は選択肢のない決められた方法であるものだとの思い込みや誤解があり、作品展示や鑑賞活動からの広がりや楽しみ、そこから繋がっていく次の作品制作への意欲などの循環についても未習である。

保育者を目指す学生が、子どもたちの作品について、その展示や鑑賞活動をより良い時間間と感ずることができるよう、野外展示の体験を通じて作品展示とその鑑賞の意義を自ら感ずるきっかけとすることがこの研究活動の意義である。

これまでの研究として、作品展示と環境の観点から、日本の伝統文化でもある茶の湯の総合的芸術空間での鑑賞に着目し、茶室空間での拝見と鑑賞について考察をおこなった¹⁾。今回は学生にとって身近な場所であり、樹木や草花が豊かな大学中庭という展示環境にて野外展示を体験し、保育園や幼稚園などでの野外作品展示での実践に繋がるよう考察をおこなった。

2. 研究及び実践方法

学生の多くは作品展示について、自身の数少ない経験から、画用紙に描かれた作品を室内の壁面に整然と並べて展示するという固定されたイメージを持っている。その固定観念を刺激して発想の転換を促すことを目指して、学生にとっても身近な地元地域で開催された具体グループの野外作品展示事例と、幼稚園での野外作品展示事例を参照し、その影響に学生自身の感性を加えた野外展示の実践に取り組んだ。

(1) 野外作品展示の事例研究

①具体美術協会（具体美術、具体グループ）²⁾の野外展示研究

具体美術による野外作品展の中で、「絵画、彫刻といった既成概念で分類できない独創的な作品」³⁾が、1955年7月芦屋川畔芦屋公園の森林で野外展示された『真夏の太陽にいでむモダンアート野外実験展』⁴⁾と、1956年7月同地開催『野外具体美術展』⁵⁾の記録写真・解説等を参照する。作品が、芦屋公園の松の木々の形状と呼応したり、海からたおやかに吹く風に揺れたり、木々の間から柔らかく落ちる木洩れ陽の動く光と影と共演するなど、作品に様々な自然からの作用が加味され、鑑賞者にも多様な変化が加えられることを学修する。

また、資料写真から野外展示とは単に野外に展示するだけではなく、作品と鑑賞者の境界を

曖昧にし、鑑賞者も作品の一部となって参加するインスタレーションであることも学ぶ。これらは学生に驚きと共に受け入れられ、一様ではなく、多様で自由な発想を知る機会に至った。

②子どもの作品野外展示研究

造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会の公開保育・実践発表会場である奈良市立清和こども園⁶⁾にて公開された、園児たちの野外作品展示事例から学ぶ。園庭の遊具やテラスデッキに、段ボールや模造紙、木材などを材料に用いた園児たちの作品が展示され、晴天の太陽の下、鮮やかな色彩が際立つ効果を感じられる事例研究である。

野外展示では風などの影響もあり、室内展示よりも丈夫な設営が必要であることや、数時間だけの展示であれば雨などへの過剰な準備も不要であること等を考える機会となった。

(2) 大学生作品野外作品展示の実践

①ローラーを用いた絵具遊びとその展開・野外展示と鑑賞

授業では3～4名のグループで、ローラーを用いた絵具遊びの教材研究として作品制作に取り組んだ。大小数種類のローラーと水彩絵具を用いて模造紙サイズの用紙に表現した。

ローラー使用に最適な絵具の濃さや水加減を探ることや、ローラーの大きさや形状によって表現の違いがどのように生じるのか、などグループごとに教材研究テーマを設定して実践し、それぞれの結果をワークシートに記入後口頭発表しあい、授業全体で共有を図った。

作品は乾燥後、作品の内1つを教室内に展示した。もう1つは、細長い短冊状に切り、輪っかを作ってそれらを自由に繋げていく作品展開に取り組んだ。この輪っかを線の形状に繋げることより、1つの輪っかを4箇所での他の輪っかと繋いでいく方法で面の形状となることを試み、自由な発想で制作に取り組んだ。紙の編み物のような色鮮やかな作品は、学生が日常を過ごす大学の中庭内に思い思いに展示して、全員で鑑賞会を行なった。

②大学生作品絵具を用いた空き箱の装飾とその展開・野外展示と鑑賞

授業ではリサイクル材料からの造形表現活動をテーマに、身近なお菓子の空き箱を用いた作品制作に取り組んだ。学生それぞれが、身近なお菓子の空き箱を持参し、その箱のデザインをよく観察することから始める。お菓子のパッケージはその商品の良さが消費者に伝わるようにデザインされたものであるため、まずはその意図をよく観察しそれを生かす装飾を絵具などを用いて各自で制作した。

完成した作品は、乾燥後インスタレーション展示活動として、室内及び大学の中庭に野外展示し、全員で作品鑑賞会を実践した。室内展示では、模擬保育教室にて作品全てを用いて、丸い形を作る、四角を作る、正方形を作る、色分けをする、(倒れない程度に)高く積んでみる、一列に並べる、箱の大きさで分けるなど、幾つかのテーマでインスタレーション活動に取り組んだ。また野外展示では、「全員の箱作品を並べて出来るだけ長い形を作ってみよう」というテーマから、箱を対角線に置くと一番長くなるという算数的発想も皆で共有するに至った。この野

外作品展示は約20分間のみの短時間開催とし、その後作品を撤収した。

3. 作品及びワークシート記述における受講学生への倫理的配慮

授業最終回にて、受講学生へ口頭及び文章で倫理的配慮について説明をおこなった。「この授業にて取り組んだワークシート及び作品等の内容（写真）は、個人が特定されないように配慮した状態で、授業の参考資料や教育・研究活動に使用させていただくことがあります。このことに了解しない場合は、申し出てください。なお、成績評価等には全く関係しません。」と伝え、実際の事例として、授業内で提示した過去の制作作品写真や、大学紀要に掲載された作品写真等も紹介し、より理解しやすいように努めた。その後、申し出がしやすいように机間を巡回しながら確認をおこなった。なお、授業最終回に欠席した学生の作品及びワークシート記述については研究対象から除外した。

4. 実践結果 野外作品展示振り返りワークシート記述より（2022年度授業受講生ワークシートより抜粋）

- ・この授業で人とは違うことや個性や想像力はすごく大切だと実感した。
- ・光の具合で、色の見え方が変わる。光が目立つところと、陰になっている部分との対比。
- ・お菓子の空き箱を、造形活動としてリメイクし飾るだけではなくその後に積み木みたいに遊んだり、野外に展示したり応用していけることを学んだ。
- ・自分の作品を全体の活動で全員での作品に繋げていくということを実際にやってみて、自分の作品が役にたっているという感じがしてワクワクした。だからもっと全体の雰囲気を作りたくしようと、この空間にはこの雰囲気が合うんじゃないかと前向きに取り組むことができた。これがインスタレーションなんだと思った。室内に展示した時よりも作品の雰囲気が違っていました。野外展示は色がくっきり感じられた。
- ・中庭での展示は友達と協力してコミュニケーションがとれる活動だった。
- ・野外で、長方形の対角線をつなげて長くなるように展示をしたが、同じ作品でも室内展示とは全く違う印象だった。保育実習では作品をどのように展示しているのか学んでいきたい。
- ・空き箱にただ色付けするのではなく、箱のイメージに合わせて自分だけのコンセプトを考えるのがとても面白くて、そのものの良さを活かす工作があることを学びました。または箱に何が描かれているか注意して見たことがなかったので、注目して見るのも楽しいと思えました。対角線が一番長いということも学べたし、野外なので広くのびのびとスペースを使えてよいと思いました。子どもにとっても、とても楽しい活動だと思いました。
- ・教室ではなく野外に飾ったら色鮮やかでとてもきれいだった。特に晴天だったので光を浴びてカラフルな作品が映えた。
- ・作品の箱を使ってみんなでどうしたら丸い形にできるかと考えながら工夫して箱を移動させ

- るのがたいへんでした。作品の箱を使って長い列を作るのも、ただ単に並べていくのではなく、箱の対角線に並べていく方法を他の人から学びました。
- ・お菓子のパッケージを見て、プロのデザイナーがどのようなコンセプトでデザインしたのかを汲み取ることが難しかったです。コンセプトを活かした装飾のデザインも難しかったです。
 - ・パッケージの形や元のデザインを活かしつつ、装飾することでその箱の良さをもっともっと引き出すことができたと思います。外に出での展示はあまりしたことがなかったけれど、自然の中での鑑賞だと個々に見た時には見えなかった部分が見えておもしろかったです。その箱の形や装飾を生かしながら鑑賞できた。いろいろな色があって、並べていくと全体がカラフルになっておもしろかったし、元のパッケージの良さにも気づくことができた体験でした。
 - ・個人の制作では自由に制作できたが、野外展示のグループ活動では、いろいろな人の個性がぶつかりあってよりいっそう作品がきれいになった。
 - ・作品の展示では、たくさんの箱を集めることで、いろいろな形に組み合わせたり、組み合わせるために頭を使ったりできるので楽しくできた。みんなの作品を集めることで友達の作品の良いところを見つけることができて、大切な時間になると思いました。
 - ・本来は捨てるはずの空き箱を装飾してお店屋さんごっこなどいろいろな遊びに繋がられると思いき、可能性が無限だと思った。空き箱を組み合わせるとロボットを作ったことはあるが、箱自体をもとのデザインを生かして装飾するという考えがなかったので、新鮮さもあり、実際にやってみるとパッケージの良さを捉えて、コンセプトを考えるのは難しく学びがあった。展示については作品を作って終わりではなく、その作品をどのように展示するのかと展開していくことを学びました。今回のインスタレーション体験で、作品と環境を総体として呈示する新しい観点を持つことができ、園でもそのような環境作りに取り組むことで子どもの感性を高めていくことが求められると思いました。
 - ・野外展示は、解放感があるような感じがしていつもと違うところがあっておもしろかった。天気や置く場所、展示する時間によって全然違ってくると思う。
 - ・中庭での展示が新鮮で驚きました。30分だけの展示でも、展示なんだとわかりました。
 - ・友達の作品を見ることで自分にはないアイデアやコンセプトがある作品があり、素敵だなと思いました。作品を展開していく仕方たくさんあると思います。野外展示によって、他の人に興味を持ってもらうきっかけを作れると思います。
 - ・こんなところに展示しても良いんだと驚きましたが、確かに悪いわけがないと納得しました。
 - ・空き箱だと雑に扱ってしまいがちだが、1つ1つがその人自身の作品であり丁寧に扱うことが大切だとわかりました。野外に予告なしに急に展示して短い時間で急に撤収するのも、ゲリラ展示やサプライズ展示となり、全員が見られたわけではないからこそ、話題になることもある。展示時間の長さやタイミングなども学んだ。短い展示時間はかえってレア感がある。
 - ・いろいろな形があってきれいに並べるのが難しい。1個ずつ見るととても小さいのにクラス全

員分を並べるととても長くなって達成感を味わうことができた。色塗りは自分のコンセプトを決めてから始めたのでやりやすかった。展示方法や鑑賞方法がたくさんあることを学びました。

- ・他の人の作品を見たり触ったりする機会になるのでおもしろいと思った。友達の作品をこわさないように優しく扱う機会になるので、良い経験になると思った。
- ・鑑賞とは、心が揺れたこと、いいなと思うこと。しかし、なにこれ、これ嫌とか悪い感想でも、作品を見ることによって、何らかの心の広がりがあったわけだから、どんな気持ちになってもいい。 どう感じるかは個性。
- ・作品だけでなく、展示空間全体を作品として鑑賞することも、表現の一つだと知りました。
- ・普通の公園でもものすごく大きな作品を展示してびっくりしました。パワーを感じた。
- ・島全体を展示スペースにしている事例を知り驚いた。環境と作品展示について学んだ。
- ・展示場所、方法によって作品の見え方が全く違いました。天気の良い日に作品を野外に飾ると、光に照らされてすごくきれいに見えました。庭園で展示するのも良いなと思いました。
- ・一人一人が作った作品をみんなでくっつけて置いたり並べたりするのは子どもたちも喜ぶと思う。自分が作った作品を見てもらう喜びがあるので、多くの人の眼につく野外展示の方法は子どもたちにとっても、楽しい経験だと思う。

5. 考察

野外展示実践活動の振り返りワークシート記述からは、「晴天で光を浴びて作品もカラフル」「鑑賞者も気持ち良い」「新鮮、驚き」「開放感」「広く伸び伸びとしたスペース」「太陽の光の具合で色彩の見え方が鮮やかになる」「光と影との対比が際立つ」「鮮明できれい」「作品と環境」「初めての野外展示体験」「天気、設置場所、展示時間」「大型作品の展示」「パワーを感じる」など自然環境がもたらす良さについて多くの記述が見られた。

また、「個性がぶつかってより一層きれい」「友達の作品の良さを見つめることができた大切な時間」「自分の作品が役に立っていると感じるワクワク感」「友達と協力してコミュニケーション」「他の人に興味を持ってもらうきっかけ」「丁寧に扱うことの大切さ」「見てもらうことの喜び」など協同で取り組むことで育まれるものの良さについての記述も多く、展示方法の学びを通して生じた学修成果が表出されている。

そして、「人とは違うこと、個性や想像力が大切」「そのものの良さをいかす」「コンセプトを活かした装飾デザイン」「自分らしさ、自分のコンセプト」「考えながら工夫して取り組む」「捨てるはずの空き箱のリサイクル」「対角線が一番長いという美術以外の算数的学び」「達成感」「表現のひとつ」など改めて作品制作について確かめるような視点が感じられる。

さらに、「色々な遊びに展開」「これがインスタレーションなんだ」「こんなところに展示してもいいんだ」「可能性が無限」「短い展示は帰ってレア」「心が振れたこと、いいなと思うこと、悪い感想でもどんな気持ちになっても良い」などの記述からは、何よりもこの野外作品展示体

験が驚きであり、固定概念から一步踏み出すきっかけとなったことが表出されている。

6. おわりに

身近な地域で開催された具体美術による野外作品展や、身近な現代の幼稚園での野外作品展示の事例研究を踏まえた、野外作品展示と鑑賞活動の実践は、驚きと共にある種の高揚感をもって受け止められた活動となった。また作品展示と鑑賞活動から次の制作活動への繋がりも見られ、鑑賞活動の意義でもある、表現と鑑賞の循環が意識されたことも大きな効果である。

さらに、「友達の良さを見つけることができた大切な時間」「自分の作品が役に立っていると感じるワクワク感」「協力してコミュニケーション」「人に興味を持ってもらうきっかけ」「見てもらうことの喜び」等の記述は、繋がりたいたが繋がれないことが多い中で、造形表現活動を通して協同で取り組むことから育まれる視点の表出であり、特筆すべき点であると言える。

今回の学生の振り返りワークシートには「上手に描く」という内容は1つも書かれていなかった。しかし、学生の内面には「上手に描く、上手に作る」という感覚がまだ根強く残っているかもしれない。この野外作品展示を通じた学びと実践から得たものが持続可能なものとなるよう、学びの影響とそこからの作用が持続していくための取り組みが次の研究課題である。

引用文献

- 1) 長谷川美和 『「茶の湯」という時空間を利用した美術鑑賞実践の一考察』 神戸女子短期大学紀要論攷 64, 21-28頁 (神戸女子短期大学) 2019. 3.
- 2) 具体美術協会 (1954-1972) は前衛画家・吉原治良を中心に兵庫県芦屋で結成された団体。児童詩雑誌『きりん』への寄稿、児童美術公募展の審査員を務めるなど児童美術との交流も深い。
- 3) 『具体資料集—ドキュメント具体1954-1972』 芦屋市立美術博物館, 1993, p.68
- 4) 兵庫県芦屋市の芦屋川畔芦屋公園の森林約3700坪のスペースに芦屋市展の延長線上の企画として芦屋市美術協会主催で開催。
- 5) 具体の主催により前年と同じ場所で開催。10メートル四方に及ぶ大画面の作品や夜間展示を想定した発光する作品等が展示された。
- 6) 第69回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会 (奈良大会) 公開保育・実践発表会場 奈良市立清和こども園 (2018.11.15)



大学での野外作品展示 オリーブの樹木に



案内ポールに



大学での野外作品展示 対角線をつないで